

恐怖心にどのように立ち向かうのか
 —ダブルダッチのアクロバットプレイヤーに着目して—
 安藤 晋 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教官 豊田 則成

キーワード：ダブルダッチ，アクロバット，恐怖心，過信

1. 緒言

本研究は、「ダブルダッチのカリスマ的アクロバットプレイヤーはどのように恐怖心に立ち向かうのか」というリサーチクエスチョン (Research Question:以下 RQ) を設定し、質的にアプローチし、発展継承可能で有益な仮説的知見導き出すことを目的とした。

2. 研究方法

インフォーマント (Informant:調査対象者:以下 Inf.) は、ダブルダッチでのアクロバット経験が2年以上でパートのリーダを務めた者9名に対し1対1の形式の半構造化インタビューを1人当たり1時間程度行った。分析方法については質的研究の代表的手法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ (Grounded Theory Approach:以下 GTA) を用いて行った。

3. 結果及び考察

分析の結果、「ダブルダッチのアクロバットプレイヤーは、①自信を獲得しようとして成功体験を積み重ねた事で、過信が生まれる。②過信により等身大の自分と向き合わないようになり失敗を繰り返す、③失敗を経験する中で自分への自信を失う。④そして自信を失う事で、恐怖心のある自分を受け入れようとし、謙虚な態度で取り組み恐怖心に立ち向かう。」という仮説的知見を導き出した。

本研究によって導き出された概念図を図1に示す。

4. まとめ

結果及び考察から、ダブルダッチのアクロバットプレイヤーは「自信を失い過信していた事に気付くからこそ謙虚な態度で恐怖心に立ち向う事ができる。」といえる。

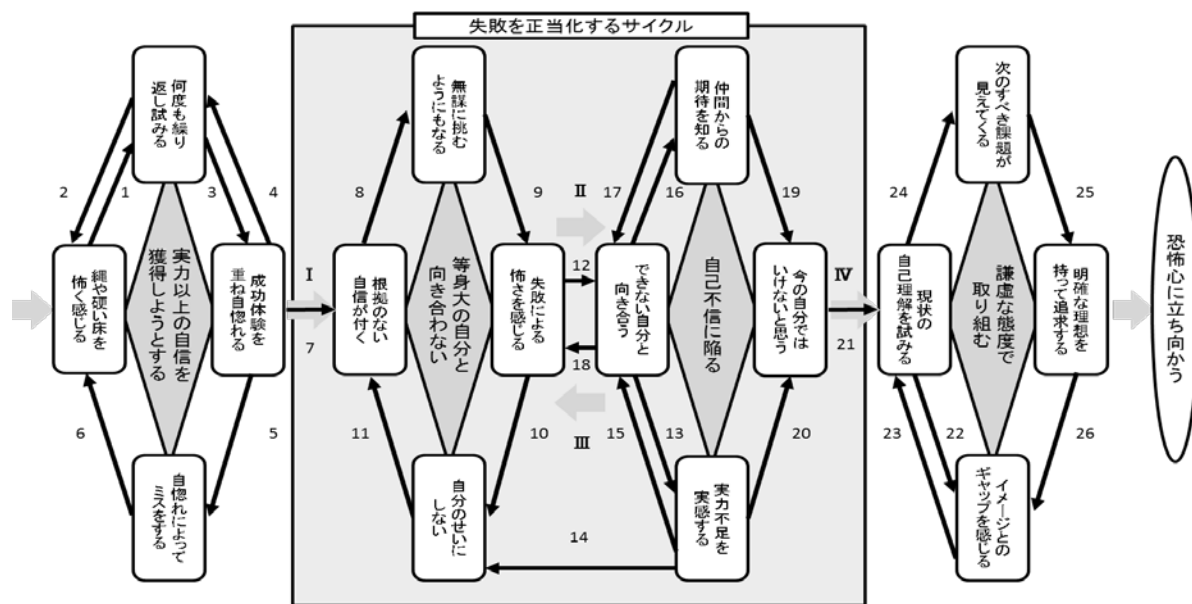


図1: 恐怖心に立ち向かっていくプロセス